



注目される中国製タイヤ

物価高騰背景に販売伸ばす

「性能面で国産と遜色ない」

物価高騰を背景に車両コストの見直しが続く中、近年話題に上るのが中国製トラック用タイヤだ。昔は、中国製タイヤは名前を聞くだけで敬遠する運送会社が多かったが、今は、ユーザーは着実に増えているようだ。

大きなトラブルは確認されていない

チャオヤンブランドの中国製タイヤを扱っている(株)ヨロズ物流(大阪府)の田中正悟営業部長は、「販売は着実に伸びている」と話す。

「エアチェックやローテーションといった基本的なメンテナンスを行っている」と話す。中国製タイヤと国産タイヤとを比べると、中国製タイヤは色合いが異なるというわけではない。逆に、国産タイヤでもトラブルは起こると説明する。

同社では10年近くチャオヤンタイヤを扱っているが、大きなトラブルは確認されていないという。同じく中国製タイヤを扱うSAILUN(サインロン)社製タイヤを扱う(株)タッコ(福岡県)タイヤ事業部の丸中淳平氏も販売は伸びていると話す。

「タイヤの仕様が異なるため、海外仕様のままでは日本に合わない場合がある。日本では全ポジション(前輪も後輪もすべてのタイヤ)にミックスタイヤを履く運用が多いが、海外ではフロントに縦溝パターンを装着するのが一般的でミックスタイヤは日本ほど使われていない。」

そのため、耐荷重指数を日本製タイヤと同水準に設定した日本専売モデルを開発している。どの位置にも装着可能なオールポジション対応のタイヤを扱っているが、大きなトラブルは確認されていないという。

品質や安全性は国産に遜色なく、価格も安い中国製タイヤの普及の途中国産タイヤは、交換・整備体制にあると指摘する。

特に、特定メーカーと契約しているタイヤ販売店では、持ち込みや他銘柄の交換に対応できないケースも少なくない。

そのため、中国製タイヤを導入している事業者は自社整備体制を構築している運送会社が多い。

その一方で、関係者は日本全体で見れば中国製タイヤのシェアは1%にも満たないとの見方を示す。トラック用タイヤ市場は、ブリヂストン始め、ダンロップ、横浜ゴム、トーヨータイヤ、ミシュランといった大手が大きなシェアを占めており、中国製タイヤはまだまだ普及の途中だ。

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

道標

「これで大型トラックに魅力を感じなくなる。ある運送会社は、ベテラン運行管理者はこう話す。20年運転手をやったから20年配車に携わり、運送業界を知り尽くしている。自身も大型免許を飛び込み試験で取得し、長距離輸送を担っていた。魅力をなくす一番の原因は大型免許取得費用だと訴える。◆近年の物価高を反映してか、取得費用は高額化している。一概には言えないが、まず普通免許取得に30万、38万かかる。普通免許から準中型免許を取るのに7万、12万円。準中型免許から中型免許を取得するのに25万、25万円。中型免許から大型免許を取得するのに20万、25万円。◆これは一番費用のかかる取得の仕方だが、高いところで計算すると合計で100万円に達してしまう。◆誰が100万円出して大型免許を取らなければならないのか。ベテラン運行管理者は嘆いている。◆またこうも話す。◆経験上、運転技術と事故はまったく関係ない。急がせない運行管理体制が大きい。事故は会社の管理体制、教育によると断言する。どうすればいいのか？と質問すると、「昔に戻せばいい。◆普通免許で4トン車まで乗れて次に大型免許だ。国は人材不足で物流が大変だというのが、運転免許制度を今一度再考してもいいのではないだろうか。」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

「性能面で国産と遜色ない」

今週の紙面

【6面】HPに給与明細とデジタコ情報を掲載
広島・志和貨物自動車

【8面】期待の37歳営業部長
大信物流輸送の山崎さん

【16面】職能ランク給+人事考課給を支給
泉州サービス

「性能面で国産と遜色ない」